

私の

独立開業 日誌

公認会計士・税理士

安野広明



➤ 公認会計士を志したきっかけ

私はもともと、これといった将来の夢や目標はありませんでした。大学で経済学部に進学したのは、地元で税理士事務所を経営している父からそれとなくすすめられたからです。大学2年の頃、同じクラスの友人から簿記の授業に誘われ、なんとなく勉強を始めたら、それが結構面白くて、運よく日商簿記2級に合格しました。その後、なぜか友人と一緒に就職指導課長に呼び出され、「大学で自習室を用意してやるから、公認会計士に挑戦してみないか？」と有難いお話をいただいたので、とりあえず公認会計士を目指すことにしたのがきっかけです。

➤ 受験時代について

高校時代は、部活動を言い訳に学業に身が入らず、高校3年生の頃には完全に落ちこぼれ状態。ですので、公認会計士の受験勉強を始めたとき、「勉強の仕方」を思い出すまでに相当時間を要しました。実際、先輩から、「安野はチェーンの外れた自転車を漕いでいるみたいな」と言われたことも…。それだけ、空回りしていたのが周りからも見てとれたのでしょう。

そんな不器用な私にできるのは、「人よりも

多く勉強すること」以外にありません。周りが合コンやサークルやらで青春を謳歌しているなか、ほぼ毎日8時から22時まで、ひたすら勉強していました。また、大学の自習室のすぐ近くに専門学校があったので、最初の頃は、よく講師室に出入りした記憶があります。

当時は、受験勉強に集中するため、テレビもない6畳1間のアパートに住んでいました。今になって考えると、世の中の同年代とはだいぶかけ離れていたような気がします。

ここだけ読むと、「暗い青春時代」と思われるかもしれませんが(汗)、当の本人はそうでもなくて、目標に向かって挑戦している充実感がありました。なにがとも、どうせやるなら一点集中で徹底的にやったほうがよいと思います。

➤ 合格、そして就職

大学を卒業して2年目で、なんとか公認会計士2次試験に合格。なぜ合格できたかというと、「粘り勝ち」としか言い表せません。「ここまでやれば、受かるだろう」と思えるまで勉強しました。粘り強さは、高校時代のサッカー部で鍛えられた気がします。そう考えると、ムダなことはなに1つなかったようです。

合格後は、大手監査法人に入所しました。大手を選んだのは、受験時代の先輩がいたのと、給料がよさそうだったからという安易な理由です。

ただ、いまだったら、大手を選ぶかはわかりません。一流企業の監査に携われるという魅力がある反面、人数が多く、なかなか責任ある立場を経験できないという側面もあります。大手と中小、双方のメリット・デメリットを慎重に検討したほうがよいでしょう。

監査をしているうち、「第三者的な立場ではなく、より会社側の立場で仕事をしてみたい」と強く思うようになり、5年目で税理士法人へ転職。そちらでは、事業承継や組織再編をはじめ、さまざまな税務を経験できて、充実した日々を送っていました。

突然の事業承継

税理士法人に転職して3年が経った頃、島根県で会計事務所を運営していた父が急逝しました。まさに、青天の霹靂です。残された9名の職員さんのなかに有資格者はいないため、私が戻って後を継ぐことになりました。これが私にとって、第2の人生の始まりです。

帰省してすぐに、税理士登録し、個人事務所を開業しました。実質的には事業承継ですが、前所長から何も引継ぎをしていないという意味では、少し特殊なケースだと思います。しかも当時の私は31歳で、最年少。経営なんてしたことがありません。最初の頃は、お客様のことをまだよくわかっていないにもかかわらず、株主総会や決算報告会で喋らざるを得ず、とにかく必死で準備しながら、なんとか1つひとつ乗り越えてきました。と同時に、手を抜かずにしっかり準備さえすれば、なんとかなるものだという自信もつきました。そんななか、何に一番苦労したかという、やはり人間関係です。こればかりは、丁寧に向き合うしかありません。ただ、未熟な私を支えてくださっている職員さんには、本当に感謝しています。

現在の仕事

現在は、税理士業務をベースにしつつ、コンサル的な取組みにも力を入れています。節税対策だけで、会社は決してよくなりません。大事なことは、お客様にワクワクする未来をイメージしていただくことです。そしてそのためにも、「どんな未来像を描くのか?」「どこに手を打てば利益が出るのか?」などについて、経営者と語り合うことが重要だと考えています。

これからの抱負

これから先のことについては、事業所数の減少、AI(人工知能)による会計業務の機械化など、悲観的な要素もたくさんありますが、私は、「お客様や地域から必要とされることに挑戦し

続けていれば、明るい未来が待っている」と信じています。そして、そのための戦略として、「あんの式月次決算書(未来会計)」と「経営計画書」と「社員力」の3つを掲げております。詳細は割愛しますが、これらの戦略に基づき、「たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にする」のが、私の夢です。

受験生の皆さんへ

私がお伝えできることは、「受験仲間やライバルは、貴重な財産である」ということです。先に書いたとおり、私は運良く、大学から国家資格受験専用の自習室を与えられました。そしてそこには、同じく公認会計士を目指すライバルと切磋琢磨できる環境があったのです。自分1人ではモチベーションが上がらないときでも、他の仲間が頑張っている姿を見ることで立ち直れましたし、仲間が先に合格していく姿は、「自分にだってできるはずだ!」と、心に火をつけてくれました。もちろん、1人で勉強して合格までたどり着ける方もいらっしゃると思いますが、少なくとも私の場合は、そういった環境に救われましたし、「環境の力」を借りない手はないと考えています。

私のように自習室に入らずとも、「誰と付き合うか?」といった環境は、ご自身で選ぶことができます。ぜひ、受け身ではなく主体的に、切磋琢磨できる環境をつくり出してください。

苦しい時期を乗り切った先には、きっと、明るい未来が待っています。皆さんのご健闘をお祈りいたします。

私の事務所

安野公認会計士税理士事務所

設立 平成22年12月

所在地 島根県益田市高津1-1-1

私の略歴

島根県益田市生まれ

平成14年 朝日監査法人(現有限責任あずさ監査法人)に入所

平成18年 公認会計士登録

平成19年 新日本アーンスタンドヤング税理士法人に入所

平成22年 安野公認会計士税理士事務所を開業